

Vol.97

Vol.97 (2023年 冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM事例・知識 … 3

Stakeholders / 法人スポンサー紹介 …… 15

Activities / 支部活動 …… 17

PM Calendar / PMカレンダー …… 24

Fact Database / データベース …… 25

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆PMI Japan Festa 2023 開催結果報告 3
PMI Japan Festa 2023 統括PM セミナープログラム 川野 琢也
- ◆委員会・部会活動内容紹介 13
 - ・ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会
ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表 大久保 剛

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

- ・Smartsheet Japan株式会社 15

Activities / 支部活動

- ◆支部創立25周年記念プログラムについて 17
PMI日本支部 副会長／創立25周年記念プログラムマネジャー 浦田 有佳里
- ◆PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2023開催報告 20
PMコミュニティ活性化委員会 委員長 杉原 秀保

PM Calendar / PMカレンダー 24

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 25

PMI日本支部ニュースレター Vol.97 2023年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

PMI Japan Festa 2023 統括PM セミナープログラム 川野 琢也



日 程：2023年11月11日(土)～12月6日(水)

テ マ：チェンジリーダーが期待するプロジェクトマネジメント

講演形態：リモート配信 ●リアルタイム配信：11月11日(土)、12日(日) 各日5セッション 計10セッション
●オンデマンド配信：11月11日(土)～12月6日(水)

講師一覧

日付	No.	講師	所属	講演テーマ
11月11日	1	福田 譲 様	富士通株式会社 執行役員EVP、CDXO、CIO	どうやる？巨大組織の変革マネジメント ～富士通のグローバル標準化プロジェクト "OneFujitsu" における挑戦～
	2	上村 正美 様	阪急電鉄株式会社 専務取締役 都市交通事業本部長	アフターコロナにおける 持続可能なモビリティとまちづくり
	3	亀ヶ谷 正信 様	Social Healthcare Design株式会社 代表取締役CEO	二宮尊徳を脳科学で紐解く ～変革時に肝となるマネジメント～
	4	新岡 優子 様	ビジネスファシリテーション・サービス 代表	AIとOKRで実現する現場と経営の連携強化、そして経営 支援ツールとしてのChatGPTの使い方
	5-1	甲斐 武彦 様 (PM Award Large 部門 最優秀プロジェクト賞)	株式会社ネオマルス 代表取締役	まちなか社員食堂GoSmart
	5-2	上東 亜佑稀 様、水野 真子 様 (PM Award Small and Medium 部門 最優秀プロジェクト賞)	一般社団法人 コード・フォー・ジャパン	カーボンフットプリント可視化プロジェクト 「じぶんごとプラネット」
11月12日	6	近内 悠太 様	教育者・哲学研究者	贈与とイノベーション
	7	岡住 修兵 様	稲とアガベ株式会社 代表取締役社長	クラフトサケ製造を起点に、男鹿のまちを未来につなぐ
	8	松久 直司 様 (2023年 PMI Future 50 選出)	東京大学先端科学技術研究センター 准教授	異分野融合で実現する次世代ウェアラブルデバイス
	9	谷島 宣之 様	株式会社 日経BP 元日経コンピュータ編集長	チェンジのために 「ソフトを他人に作らせる日本」をどうするか
	10	渡部カンコロンゴ清花 様	NPO法人WELgee 代表理事	日本のビジネスを変える！ ～チェンジリーダーとしての難民人材たち～

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

■はじめに

2023年11月11日(土)、12日(日)にPMI Japan Festa 2023が開催され、12月6日まで各講演のオンデマンド配信を行いました。オンデマンド配信は当初は11月末までの予定でしたが、各方面からのご要望にお応えして配信期間を延長しました。

今年5月、WHOによる新型コロナウイルス感染症を巡る緊急事態宣言が終了。世界的な新型コロナ対策も大きな節目を迎え、日本においても2類相当から5類感染症に移行されました。他方、終わりの見えないウクライナ紛争やオーバーツーリズム問題の拡大など、これまでとは異なる様相・変化が我々の周囲に訪れつつあります。この変化は、新型コロナウイルスが初めて流行した2020年に対応せざるを得なかった受け身のなものとは異なり、自ら時流を読んで変化に対応し乗り越えて行かねばならない、能動的な変化なのではないかと捉えています。

今年はこの変化をさらにリードしていくことについて皆さんと共に考えたいのと思いと、25周年のシルバー・ジュビ

リーを迎えたPMI日本支部の記念行事等に鑑み、テーマとして「チェンジリーダーが期待するプロジェクトマネジメント」を据えることとしました。

昨年同様、今回のPMI Japan Festa 2023でも「PM Award 2023」の優秀賞受賞者をお招きするなど、各界のリーダーに登壇いただきました。

■運営面での趣向

企画・運営にあたるセミナープログラムの準備活動ぶりや、講師との事前リハーサルの様子などをコンパクトにまとめた動画や、グラフィックレコーディングは今年も好評いただきました。

■日本支部内外の他のイベントとのコラボレーション

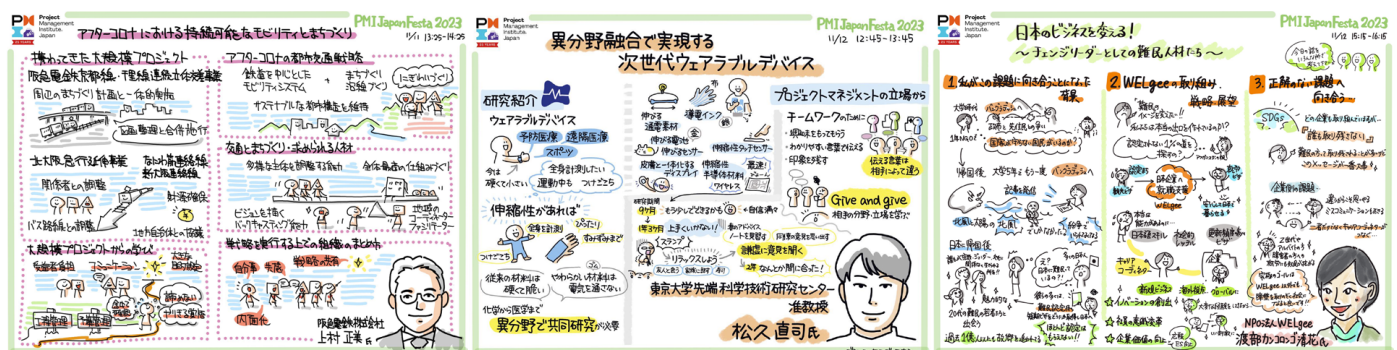
昨年に引き続き今年もPM Award とのコラボレーションを行い、PM Awardでの2部門におけるそれぞれの優秀プロジェクト受賞者から、卓越したプロジェクトの内容をご紹介いただきました。



開幕時の放映動画



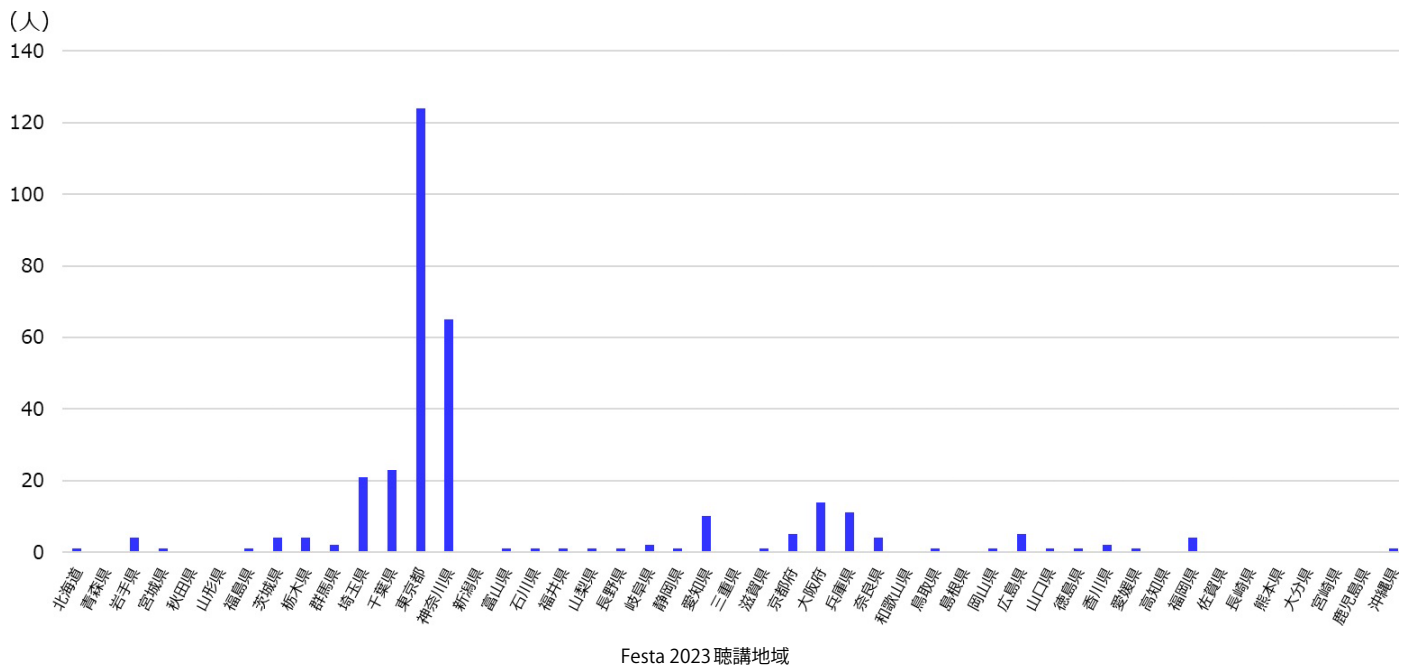
閉幕時の放映動画



グラフィックレコーディングの例

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告



さらに、PMI本部が全世界の中から選んだ2023年の若き新進リーダー「Future 50」である松久直司様も招請しました。

■聴講者のご意見、聴講地域などの特徴

アンケート結果から満足度を見ると「大変良かった」と「良かった」の合計が98%を越えており、例年同様に好評いただいたことがわかります。

また、日本フォーラムと同様、関東地域での聴講者が多くなっています。海外からも韓国、インドネシア、アメリカ（2人）、中国、オーストリアと、さまざまな国から参加いただきました。

リアルタイムで聴講された方は全体の27%で、年々オンデマンド聴講者が多くなる傾向が続いています。

■聴講された皆さまからの声の一例

聴講された方々には大変満足いただけたことが、アンケート結果からわかります。

- 多彩なテーマが展開されており、収穫の多いイベントだった。
- 色々な分野の登壇者の話を聞け、普段触れない分野が多かったこともあり、楽しく視聴できた。
- 今回も刺激になる、勉強になるお話が多かった。
- 毎回思いですが、素晴らしい！
- 経験に基づく、プロジェクト管理の示唆が大きな勉強になりました。

○毎年いろんな分野の発表がとても視野を広めてくれるのでありがたいです。

○プロジェクト管理を志す者として、取り入れたい思考や心に刺さる言葉を見つける楽しみや醍醐味があります。

○テーマ及び素晴らしい演題構成でした。今回、オンライン配信でしか聴けない演題も多かったのですが、画面の向こうで拍手をしていました。

○新たな発見や気づきがあって良き時間となりました。様々な形のプロジェクトがあってそれぞれの事例からの学びや、俯瞰した哲学や科学的視点など、どれも面白い内容でした。

■総括

今回ご講演いただいた内容は、いずれも変化に挑戦されてきた講演者の皆さまのご苦勞をもとにしたものばかりで、事例によってはコロナ禍の前から取り組んでこられた内容が実を結び形を成したものもありました。そして、プロジェクトマネジメントに期待することを明確にお伝えいただいたものもあれば、お話の内容を通して、プロジェクトマネジメントに必要なことを考えさせられるものもありました。また、日本社会に存在する法律や、規範、概念などの既存の枠組みへの挑戦に関わる講演には、全く知らなかった意外な枠組みも多く、困難をどのように乗り越えていくかブレークスルーするためのヒントになることを多く得られたご講演ばかりで、とても良いご縁に恵まれて開催できたFestaとなりました。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

皆さまはどのように感じられたでしょうか？

今回のPMI Japan Festa はこれまで同様のオンライン配信をさらに進め、ご都合がつかないご講演者の方はビデオ参加も利用し、ご講演いただく皆さまの状況にこたえての運用といたしました。また、聴講者の皆さまの状況にも変化も見え、オンデマンドで聴講された方が極めて多く、リアルタイム配信で聴講された方はかなり少なくなっています。この結果も踏まえ、今後のオンライン配信の位置づけをいかにすべきかを考える機会にもなりました。

今回、私が統括PMの任を負いましたが、本来業務に多くの時間を取られていたため、例年以上に多くのメンバーの協

力に甘えて進めることになりました。当然、最小限の準備での対応を迫られることとなりましたが、今回も講師陣にも恵まれ、好評裡に終了することができました。

今回ご講演いただいたPM Award 2023最優秀プロジェクト2つも加えた10講演11団体のお話からプロジェクトマネジメントを進めるうえでの新たな視座、示唆を得ることができ、世界から求められているチェンジリーダーの観点を知る機会をご提供できていれば幸いです。

来年のJapan Festa 2024にもご期待ください。

以下、今回の講演について、ホームページに掲載した概要を元にご紹介します。

■ No.1

どうやる？ 巨大組織の変革マネジメント ～富士通のグローバル標準化プロジェクト “OneFujitsu”における挑戦～

□ 講師：福田 譲 様

富士通株式会社 執行役員EVP、CDXO、CIO

□ 講演：2023年11月11日(土) 12:10～13:10

【講師プロフィール】

1997年、ERP（基幹業務統合ソフトウェア）の世界トップベンダーであるSAP社の日本法人に入社し、23年間在籍。新規事業の統括や営業責任者を経て2014年代表取締役役に就任。

「日本企業の真のグローバル競争力向上に直接的に関わりたい」との思いから、2020年4月に富士通株式会社 執行役員常務 CIO、CDXO補佐に就任。2022年4月の執行役員制度変更を経て、2023年4月から現職。

富士通自身のDX（デジタル変革）プロジェクト「フジトラ（Fujitsu Transformation）」をリードするとともに、日本の特長を踏まえた日本型DXの探求と型化に取り組んでいる。



【講演概要】

富士通は現在、全社規模のデジタル変革（DX）プロジェクトとして「フジトラ（Fujitsu Transformation）」に取り組んでいます。

この中の変革施策の1つが「OneFujitsu」で、売上3.7兆円/社員数12.4万人規模の富士通のマネジメントやオペレーション、ITシステムを、グローバル/グループ全体で1つに標準化・統合するという大規模な変革プロジェクトです。

「抜本的な変革が苦手」と評される日本企業における巨大な変革プロジェクトにおけるチェンジマネジメント、プロジェクトマネジメント面の挑戦と工夫を共有します。

■ No.2

アフターコロナにおける 持続可能なモビリティと まちづくり

□ 講師：上村 正美 様

阪急電鉄株式会社 専務取締役 都市交通事業本部長

□ 講演：2023年11月11日(土) 13:25～14:25

【講師プロフィール】

京都大学大学院 工学研究科交通土木工学専攻 修了

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

1985年 阪急電鉄株式会社 入社

2022年 専務取締役 都市交通事業本部長（現在）



コロナ禍によって一気に加速した社会変化・事業環境の中で、従来の「人を運ぶ」だけでなく、次世代に向けた「幸せな沿線づくり」に着目。これまでの延長線上ではなく、あるべき姿からバックキャストして沿線の未来をステークホルダーとともに創造していくことを提唱。

キャリアを通して以下のプロジェクトを主に推進。

- 北大阪急行線延伸事業
- なにわ筋連絡線・新大阪連絡線計画
- 阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業。

【講演概要】

本講演では、新型コロナパンデミックによって起こった急速な社会変化・行動変容に対応した交通ネットワークとまちづくりのありかたについてお話をいたします。

社会的問題として労働者不足・リモートワーク化が加速する中、交通事業者はどのように事業を継続していくのか？新しいモビリティが誕生している中で、都市交通とまちづくりの両輪をどのように進化・発展させていくべきなのか？こうした課題意識に対して、多様なステークホルダー（国・自治体・市民）を結びつけながら、インクルーシブな社会構造を形作っていく必要があります。

鉄道事業者・利用者といった従来の二分された関係ではなく、サービスを提供したい人と提供されたい人とのマッチングをはじめとした新たな関係性や、多様な社会事例を交えながら、交通とまちづくりのプロジェクトマネジメントについて考えを述べたいと思います。

■ No.3

二宮尊徳を脳科学で紐解く ～変革時に肝となるマネジメント～

□ 講師：亀ヶ谷 正信 様

Social Healthcare Design 株式会社 代表取締役 CEO

□ 講演：2023年11月11日(土) 14:40～15:40

【講師プロフィール】

青山学院大学経営学部経営学科卒業後、(旧)三井信託銀行へ入行。

その後、横浜市を中心にドラッグストア80店以上を展開するグループ会社の店舗開発部長として累計44店舗以上の出店、30億円以上の新規営業利益創出に貢献。

その後、「未病」産業において革新的なイノベーションを起こす事を使命と決め、Social Healthcare Design 株式会社及びSHD研究所を設立し現在に至る。

グロービス経営大学院MBA取得。株式会社カメガヤ取締役。



【講演概要】

変革時のマネジメントにおいて最も大きな課題が「抵抗」です。この対応を誤るだけで取り返しのつかないことに。プロジェクトマネジメントにおいても、抵抗のリスクを読むだけでなく、抵抗自体をコントロールしたいもの。

そこでご紹介したいのが、二宮尊徳。皆さんも二宮尊徳の名前はご存知ですね。実は変革のスペシャリストで、尊徳の教訓に従って勤苦・勤労を実践した六百を超える村々は、みごとに再生して経済的な豊かさを取り戻したと言われています。

抵抗が多かったはずなのに、尊徳は何をしたのでしょうか？

本講演ではウェルビーイングとは何か、どうすればウェルビーイングに至るのかをご説明しつつ、二宮尊徳が改革を成し遂げる際に一番大切にされた心田開発をご紹介します。ウェルビーイングと心田開発の共通点を脳のメカニズムとして皆さんに共有したいと思います。

■ No.4

AIとOKRで実現する現場と 経営の連携強化、 そして経営支援ツールとしての ChatGPTの使い方

□ 講師：新岡 優子 様

ビジネスファシリテーション 代表

□ 講演：2023年11月11日(土) 15:55～16:55

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

【講師プロフィール】

SE、プロジェクトマネージャ、ITコンサルタントとして20数年IT業界に在籍。在籍企業は(株)SRA、(株)豆蔵など。その後、組織開発やファシリテーションの組織導入に転身し、大企業の事業部や中小企業の経営者・経営幹部の支援を行う。



今年ChatGPTが普及したことをきっかけに15年ぶりにIT活動を再開し、「AI×OKR（目標達成手法）×組織開発」の組織導入サービスを開始する。

著書に『仕事の質が劇的に上がる88の質問』（日経BP社）、『ファシリテーターの道具箱』（ダイヤモンド社）がある。今年11月に日経BP社より『ChatGPTで経営支援 強い組織の築き方』を出版。

ライバルは20代の二人の息子。趣味は健康。自称AIおばさん。

【講演概要】

MBO（目標管理）でもKPI（評価指標）でもない、目標達成のための第3の手法「OKR（Objectives and Key Results）」をご存じですか？

OKRとは、全社、部門、個人の目標（Objectives）とそれを達成するための成果指標（Key Results）を構造的につなぐ（＝OKRツリーを作成する）ことによって、現場と経営が明確なミッションを共有し、全員が同一のベクトルに向かって動くための目標達成手法です。

OKRは1970年代にインテル社で導入され、シリコンバレーで発達し、近年日本でもメルカリ、DeNAなどの大手企業やベンチャー企業で実績を残しています。しかし、時間、コスト、労力、能力など、様々なリソースの問題で普及が進まなかったのが現状です。それが今年、AIの進化によって可能となりました。

本講演では生成AIであるChatGPTを活用して、OKRをどのように組織に浸透させるのか、そしてその際のマネジメントのあり方について解説します。また、ChatGPTの経営支援ツールとしての使い方も解説します。

■No.5-1

まちなか社員食堂 GoSmart

〔PM Award 2023でのLarge 部門
最優秀プロジェクト賞〕

□講師：甲斐 武彦 様

株式会社ネオマルス 代表取締役

□講演：2023年11月11日(土) 17:10～17:40

【講師プロフィール】

1967年、大分県別府市出身。

1991年に株式会社ネオマルスコレーション（現：株式会社ネオマルス）を大分市に設立。

当初は飲食店と衣料品店を中心に事業を行うが、CSデジタル放送の開始を契機に電気通信工事業に参入。

電気通信工事の全国ネットワーク「uRAT（ユーラット）」や工事進捗管理システム「stella（ステラ）」を開発。

2014年 経済産業省「中小企業IT経営力大賞2014」で大賞（経済産業大臣賞）を受賞。

2017年 経済産業省「攻めのIT経営中小企業百選2017」に選定。

2021年 クラウド実践コンテスト全国大会で「ITコーディネータ協会会長賞」を受賞。全国中小企業クラウド実践大賞福岡大会で「九州総合通信局長賞」を受賞。



【講演概要】

中小企業・小規模事業者が福利厚生として気軽に導入できる、社食補助システム「まちなか社員食堂」と、アプリを経由して出退勤を報告・管理できるデジタルタイムカード、さらには社内情報の発信やアンケート回収などを通じてコミュニケーションを促進するデジタル社員手帳の機能を備え、自社だけに留まらず不特定多数の企業に利用していただくことのできるアプリ開発プロジェクトです。

このプロジェクトは、従業員のモチベーション向上や採用・定着率向上に貢献すると同時に、企業に所属する従業員が地域との連携を感じながら働くことで、会社だけでなく地域への参加意識も高められ、街の活性化に寄与することを目的としています。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

■No.5-2

カーボンフットプリント 可視化プロジェクト 「じぶんごとプラネット」

〔PM Award 2023でのSmall and Medium
部門 最優秀プロジェクト賞〕

□講師：上東 亜佑稀 様、水野 真子 様
一般社団法人コード・フォー・ジャパン

□講演：2023年11月11日(土) 17:40～18:10

【講師プロフィール】

〔上東 亜佑稀 様〕

大学在学中にフリーランスのエンジニアとして活動をスタート、国内外の多様なプロジェクトで開発に携わる。また、スタートアップでの経験を積んで新しいアイデアやビジネスでの開発経験などを経て、2021年にCode for Japanにjoin。参加型民主主義プラットフォームDecidimの開発・運用や、じぶんごとプラネットの開発など、シビックテックやOSSに関わる活動を行っている。



〔水野 真子 様〕

大学でグラフィックデザインを専攻し、Web制作会社での4年間の経験を積む。2017年9月にカナダ・バンクーバーへ活動拠点を移し、現地のソフトウェア開発企業で多国籍のチームと共にプロダクト開発に携わる。その後、デジタルマーケティング企業でデザイナーとして働きながら、SEOの知識を磨く。2020年、コロナ禍によるイベントのオンライン化がきっかけでCode for Japanと出会い、2021年からメンバーとして活動を開始。じぶんごとプラネットのUX/UIデザイン、ユーザーアクセスデータの解析、デジタルシチズンシップの取り組みで高校にてデザインワークショップの実施、国土地理院の既存サービスの調査など様々なプロジェクトに携わる。



【講演概要】

脱炭素社会実現に向けて市民の行動変容を促すべく、

Code for Japanが国立環境研究所の協力を得てカーボンフットプリント可視化アプリ「じぶんごとプラネット」を共同開発しました。このアプリを使うことで、ユーザーは自身の生活スタイルによる気候変動への影響を知り、具体的な脱炭素への行動を数字で選ぶことができます。

本講演では「じぶんごとプラネット」プロジェクトの起源と進行過程に焦点を当てます。チェンジリーダーである国立環境研究所研究員の思いを受け、プロジェクトメンバーが自発的に行動し、その行動が波紋を生み新たな行動へと繋がっていくプロセスを探ります。

約20人のメンバー、エンジニア、デザイナー、そしてアイデアづくりで参加したメンバーは、アプリの開発を通して、気候変動問題を徐々に自分ごと化し、更なる改善提案や周囲への働きかけ、他領域での展開といった自発的な行動につながっていきました。これらの各自の行動は、他の人々にも影響を与え、新たな連鎖反応を生み出しています。具体的な出来事や成功体験を通じて、参加者がどのように本プロジェクトに共感して行動を起こし、活動の輪が広がってきたのかをお伝えします。

■No.6

贈与とイノベーション

□講師：近内 悠太 様
教育者・哲学研究者

□講演：2023年11月12日(日) 9:30～10:30

【講師プロフィール】

1985年神奈川県生まれ。

慶應義塾大学理工学部数理科学科卒業、日本大学大学院文学研究科修士課程修了。専門はウィットゲンシュタイン哲学。

リベラルアーツを主軸にした統合型学習塾「知窓学舎」講師。

著書：『世界は贈与でできている／資本主義の「すきま」を埋める倫理学』（第29回山本七平賞 奨励賞）

<https://www.amazon.co.jp/dp/4910063056>



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

【講演概要】

見返りを求めることなく、何かを与えること。文化人類学、哲学、現代思想ではそれを「贈与 gift」と呼びます。例えば、ボランティアの活動も贈与に含まれます。

そんな贈与の対概念は「交換」です。商取引や売買において我々は当然ですが、対価を求めます。そこでは、無償で何かを差し出すことはせず、見返りを求めることになる。つまり、ビジネスは「贈与」ではなく、「交換」の関係性によって駆動していると言えます。

あるいは、仕事上のよいパフォーマンスには報酬（インセンティブ）を与え、逆にノルマを達成できなかったりミスをした場合には罰則（サンクション）を科すというのも、交換的なやりとりです。

このような手法はごく普通のことに見えるかもしれませんが。しかし、時にひとは、交換ではうまく動いてくれません。つまり、人間関係の重要な局面においては、交換ではなく贈与で応じなければならない。言い換えれば、我々の身の回りには金銭では買えないもの（＝贈与）が数多くある、ということです。

本講演では、人間のコミュニケーションにおける贈与のメカニズムを紹介しながら、チェンジリーダーが持つべき視点として「イノベーションは贈与として起こる」というテーマに繋げていこうと思います。

また、贈与の近接概念である、「ケア」と「利他」についてもお話できればと考えています。

■ No.7

クラフトサケ製造を起点に、男鹿のまちを未来につなぐ

□ 講師：岡住 修兵 様

稲とアガベ株式会社 代表取締役

□ 講演：2023年11月12日(日) 10:45～11:45

【講師プロフィール】

1988年、福岡県北九州市出身。神戸大学経営学部を卒業後、秋田県・新政酒造で酒造りを学ぶ。

2021年に秋田県男鹿市に「稲とアガベ醸造所」をオープン。新ジャンルのお酒「クラフトサケ」造りを行うとともに、レストラン「土と風」を経営。

2023年春、食品加工所「SANABURI FACTORY」を立ち上げ、廃棄リスクのある酒粕をマヨネーズにする加工生産をスタート。また同年8月一風堂監修レシピのラーメン店おがやを立ち上げる。

今後、ホテルや蒸留所の建設を予定しており、多くの優良な雇用を創出することを目指す。

クラフトサケブリュワリー協会初代会長。



【講演概要】

大学時代に居酒屋で秋田県の新政酒造の酒に出会い、そのおいしさに感動。それがきっかけで秋田県へ移住、新政酒造に入社し酒造りの道に入りました。新政酒造で修行をする中で酒造りの楽しさを知り、自分で酒造りの事業を立ち上げたいと思うようになりました。

しかし、日本酒は新規参入が制限されているため、酒税法の免許上は「その他の醸造酒」として醸造所を開業し、その後、同じように日本酒の技術を活かした酒造りをしている7社とともにクラフトサケブリュワリー協会を設立、新たなジャンル「クラフトサケ」を生み出し、酒好きのひとたちに広めてきました。

醸造所を開業した男鹿の街は人口が減少し、過疎化が進んでいる地域です。駅前でも空き家だらけという状況を変えるべく、醸造所を起点に「徒歩20分圏内の未来」というビジョンを掲げ、レストラン、食品加工所、ラーメン店を開業し、ラーメン店では行列ができるほどの人気を得て、さらに今後1年以内にはジン蒸留所、ホテルの開業も計画中です。2年半前にひとりで始めた事業も、現在では従業員18人の仲間とともに成長を続けています。

人口減少・過疎化の地方を人が集まる街に変えていく、地方創生の取組みについてお話しします。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

■No.8

異分野融合で実現する次世代ウェアラブルデバイス

□講師：松久 直司 様

東京大学先端科学技術研究センター 准教授

□講演：2023年11月12日(日) 12:45～13:45

【講師プロフィール】

東京大学先端科学技術研究センター・准教授・博士（工学）。東京大学生産技術研究所准教授・慶應義塾大客員准教授を兼任。



専門は柔らかく伸縮性の高い電子材料とそれを用いた伸縮性電子デバイスの開発。我々生体と同様に柔らかい電子デバイスは、皮膚の皺にまで密着する次世代ウェアラブルヘルスケアデバイスやヒューマンコンピュータインターフェース、ロボット用電子人工皮膚などへの応用が期待される。

世界最高導電率の印刷型伸縮性導体や世界最高周波数で駆動できる伸縮性ダイオードなどの研究に従事。

主な受賞歴としてPMI Future 50, MIT Technology Review Innovators Under 35 Global (2023) など。

2017年3月東京大学工学系研究科電気系工学専攻博士課程修了後、シンガポール南洋理工大ポスドク研究員、米国スタンフォード大ポスドク研究員、慶應義塾大専任講師を歴任。

フレキシブル・ストレッチャブルエレクトロニクス若手研究者の会を立ち上げ、代表として日本国内の柔らかいエレクトロニクス研究の活性化にも取り組んでいる。

【講演概要】

次世代のウェアラブルヘルスケアデバイスとして、我々の生体と同じように柔らかく伸縮する電子材料で作られるデバイスが期待されています。現行の固くて小さい腕時計型や指輪型のデバイスと異なり、柔らかいので皮膚にピタッと密着するので、着け心地やデバイスで取得する生体信号の品質を大きく改善できます。

このような柔らかい電子デバイスを実現する上で大きな技術課題となるのは、従来のガラスのように固くて脆い電子材料を用いることができないことです。電気を流さない材料の

代表格とも言えるゴムのような材料を優れた電気特性を持つ材料へと作り変える必要があります。新しい材料を作りそれを使って電子デバイス・システムを組み上げ、さらにそれを使って意味のある生体信号を計測するには、様々な異分野の研究者との強力な連携が必要になります。

本講演では、講演者が開発してきた様々な柔らかい電子材料（伸縮性導体、伸縮性半導体）と、それらを用いて構築した柔らかいデバイス・システム（無線センサ、ディスプレイなど）などについて紹介します。

■No.9

チェンジのために「ソフトを他人に作らせる日本」をどうするか

□講師：谷島 宣之 様

日経BP 総合研究所 未来ラボ 上席研究員

元日経コンピュータ編集長

□講演：2023年11月12日(日) 14:00～15:00

【講師プロフィール】

1985年から通算20年以上、日経コンピュータ誌の記者や編集委員を務め、情報システム構築プロジェクトの成功・失敗事例を取材。PMI日本支部などプロジェクトマネジメント（PM）団体との関わりも深く、PM関連記事や特集を多数執筆。

2009年日経コンピュータ編集長。2011年6月から日経BP ビジヨナリー経営研究所研究員。2020年から現職。

著書に『ソフトを他人に作らせる日本、自分で作る米国』（日経BP、2013）、『社長が知りたいIT 50の本当』（日経BP、2016）がある。

【講演概要】

「ソフトを他人に作らせる日本、自分で作る米国」。

この言葉で伝えたかったのは、物事に取り組む姿勢と考え方が日本と米国で大きく異なるということである。情報システムを内製するかしらないか、といった話にはとどまらない。日米のどちらが良い悪いということではないが、違いをはっ



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

きり認識しておかないと、プロジェクトマネジメントプロフェッショナルはチェンジリーダーを支えることができない。プロジェクトマネジメントは日本で生まれたものではないからだ。

米国流のプロの心得と言える「PMBOK®ガイド第7版」に加え、日本流のプロの心得と言える『五輪書』などをひもときながら、日本と米国の違いを考えてみたい。

■No.10

日本のビジネスを変える！

～チェンジリーダーとしての難民人材たち～

□講師：渡部 カンコロンゴ 清花 様

NPO法人WELgee 代表理事

□講演：2023年11月12日(日) 15:15～16:15

【講師プロフィール】

静岡県浜松市出身。日本にきた難民の活躍機会を作り出すNPO法人WELgee代表。

様々な背景を持つ子ども・若者が出入りする実家で育つ。大学時代はバンガラデシュの紛争地にてNGOの駐在員・国連開発計画（UNDP）インターンとして平和構築プロジェクトに参画し、国家が守らない、守れない人たちの存在を目の当たりにして帰国。

2016年に日本に逃れてきた難民の仲間たちとWELgeeを設立。「WELgee Talents」にて難民人材と日本企業を繋ぐ人材コーディネーション事業を展開。

グローバル・コンソーシアムINCO主催『Woman Entrepreneur of the Year Award 2018』グランプリ。Forbes 30 under 30のJapan / Asia 選出。日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2022受賞。

静岡文化芸術大学卒業、東京大学大学院 総合文化研究科・人間の安全保障プログラム 修士課程修了。Global Shapers Tokyo hub所属。トビタテ！留学JAPAN一期。サンデーモー



ニングコメンテーター。埼玉県川口市多文化共生指針策定委員。法政大学「国際NGO論」非常勤講師。2歳児育児に奮闘中！

WELgee Talents

<https://welgee-talents.jp/>

【講演概要】

皆さんは「難民」と聞いたとき、何が思い浮かびますか？ビジネスパーソンとしては、少し遠い社会課題だと感じる方も多いかもしれません。実は、テロや紛争、政治的混乱から逃れてやってくる難民の若者たちが日本にもいます。しかし、難民認定率は低く、命を何とか繋いでやってきた人々にとって日本はなかなか人生再建の地になっていません。皆さんだったら、どんなソリューションを考えますか？

NPO法人WELgeeは、難民人材と日本企業を繋ぐ人材コーディネーション事業「WELgee Talents」を運営しています。これまで400人以上の難民の方々と対話をする中で気づいたのは、彼らの多くが母国で命の危険に直面しても人生を諦めず、未知の国に飛び込んで人生を再建しよう、という勇気と情熱を持っていること。逆境を切り拓いてきた彼らの経験と志を、日本企業のビジネスの現場で活かすことで、海外進出やイノベーション創出、社員の意識変革などのポジティブな変化を生み出すことができます。

今年のJapan Festa 2023の大テーマ「チェンジリーダー」には様々な定義があると思いますが、逆境を乗り越えて人生再建に向かう難民たちも間違いなくチェンジリーダーたちだと感じています。

来日した難民申請者を「グローバル人材」として日本企業への就労を支援し、難民認定率が低い日本において長期在留資格を獲得させるという新しい支援の形を構築した取り組みについて、その過程、新しい価値の創造によって社会課題の解決を試みる方法、仮説検証から事業化、ムーブメントへの他セクターの巻き込み、NPOだからできる挑戦などについてお話できたらと思います。

この8年間、多くの企業人、社会人プロボノの皆さんも活動に参画してくださっているので、共に取り組むヒントについてもご紹介します。

委員会・部会活動内容紹介

■ ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 代表 大久保 剛

■ ソーシャル・プロジェクトマネジメントとは？

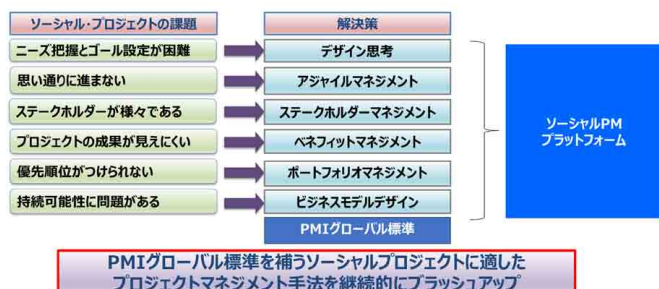
皆さんは「ソーシャル・プロジェクトマネジメント」という言葉を聞いたことはありますか？ ソーシャル・プロジェクトマネジメント（以下「ソーシャルPM」）とは、社会課題の解決を目的とする活動（以下「ソーシャル・プロジェクト」）に適するプロジェクトマネジメントのことです。私たち研究会は、ミッションとして「ソーシャルPM手法の開発、普及により社会の発展に貢献する」ことを掲げ、ビジョンとして「世界中に安定した社会の持続を」を目指しています。

■ 社会課題の解決に適したプロジェクトマネジメント手法とは？

私たち研究会のルーツは、2011年の東日本大震災の復興支援関連団体の運営をお手伝いしたことにあります。その中で、社会課題の解決には下図の左側に示すような特有な課題が存在し、それを解決するためにはソーシャルPM手法が必要という考えに至りました。さまざまな調査と研究を重ね、PMIグローバル標準をベースにした「ソーシャルPM手法」を創出、2017年より継続的に開発・ブラッシュアップし、その普及に努めてきました。

図1 ソーシャルPM手法とは？

ソーシャル活動の課題や経験をもとに創出した ソーシャルプロジェクトを推進するための手法



■ 研究会の体制と活動内容

当研究会の活動体制は、4つのワーキンググループ（以下WGと記載）とPMOで構成されています。

研究会メンバーは自らが興味のあるWGに所属し、自身のライフスタイルに合わせて活動を行っています。また2023年からは「部活」という形で研究会メンバーが実施したいテーマを宣言して立ち上げ、都度希望者を募って活動することも開始しました。

表1 研究会の体制と活動内容

4つのワーキンググループとPMOで活動し、様々な「場」を提供

名称	場の役割	概要	活動内容
WG1	情報収集	事例調査	社会課題とそれを解決しようとする組織・団体の事例を調査しPM視点での分析。社会課題そのものの構造や実態を調査し、適用可能なプロジェクトマネジメント手法に関する分析および仮説立案。
WG2	学び	方法論研究開発	ソーシャル・プロジェクトマネジメント方法論を研究・開発するためにともにそれを普及するためのワークショップの方法論を開発。研究会内勉強会・ディスカッションを通じてメンバーの知見やスキルのポトムアップを図りつつ、ソーシャルPMの普及・促進をする「実践ワークショップ」などの運営を実施。
WG3	交流	コミュニティマネジメント	研究会の活動及び成果の告知。研究会活動の活性化。ソーシャルメディアを通じた外部連携活動の施策立案と実施。
WG4	実践	ソーシャル・プロジェクトマネジメント実践	企業・行政・NPO・教育・市民活動などのソーシャル・プロジェクトマネジメント支援の実践。手法の改善やブラッシュアップに必要な情報を収集。
PMO	組織運営	研究会の運営支援	定例会開催・進捗管理などの組織運営支援

■ 2023年の主な対外活動

2023年は主に以下のような対外活動を実施しました。①PMI日本フォーラム2023における講演（2本）、②日本支部としてPM普及のための短編動画作成（4本）、③組織拡大委員会の支援活動として「NPOのためのプロジェクトマネジメント研修」の実施、④教育国際化委員会の支援活動として「学生向けSDGsビジネスモデル研修」の支援、⑤ブログによる研究会の活動内容や研究会メンバーのソーシャル活動に関する発信。

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■「PMI Japan Festa 2023」開催結果報告

図2 2023年の対外活動の一例（短編動画の作成）

● 短編動画の作成・発信



■ 2023年の主な部会内活動

2023年は、研究会メンバーが少しでも有意義に楽しく過ごせることを念頭に、主に以下の活動を行いました。①少子高齢化社会の活性化に関する研究・仮説立案、ウェルビーイングに関する調査・研究、デジタルデバйдに関する調査・研究、②ソーシャルPM手法の見直しに向けてソーシャル活動を実施組織へのインタビュー(6団体)、③ソーシャル・キャピタルに関する調査・研究、④外部サービスを利用した自組織の活性度診断(コミュニティ・キャピタル診断)と対策検討。⑤部活で募集した有志による入会ガイダンスの作成。⑥プロボノ活動に参加した研究会メンバーによる体験談と共有。

■ 入会のお誘い

「業務以外でプロジェクトマネジメントを活用したい」、「自身のPMスキルを活用して社会貢献したい」と思われている方、当研究会と一緒に挑戦してみませんか？ 何も知らない・わからない、と不安な方のために「入会ガイダンス」を作成しましたのでご安心ください。プロジェクトマネジメントをライフスキルとして継続的に学び、活用し、社会貢献を目指しませんか？

図3 当研究会の特徴と入会のお誘い

- ✓ **ソーシャル・プロジェクトマネジメント**は個人やボランティアだけでなく**企業領域にこそ必要**
- ✓ 複雑なソーシャル課題を解決する**6つのソーシャル・プロジェクトマネジメント手法**を開発
- ✓ 研究会として **情報収集、学び、交流、実践** の場を提供
- ✓ フォーラム発表、動画発信、勉強会、文献調査など **内外活動の質と量**
- ✓ **知識の活用・実践、PMスキルの向上、社会貢献、人脈作り** など。PDUはおまけ
- ✓ あなたのPMスキルをもっと広い領域で、もっと長く使える、**ライフスキルにアップグレード!**



ソーシャルプロジェクト・マネジメント研究会
(PMI日本支部サイト)



入会申し込みは
こちらまで！

<https://www.pmi-japan.org/socialsg/>

月例会 毎月第1月曜日 19:00-21:00
勉強会 毎月第3火曜日 19:30-21:00
*ワーキンググループ活動や部活については
適宜メンバで決定
⇒いずれもZOOMによるオンライン開催

Stakeholders／法人スポンサー紹介

Smartsheet Japan株式会社

Smartsheetについて

Smartsheet Japan株式会社は、効率的で質の高い仕事の実現を支援するエンタープライズ向けプロジェクト管理プラットフォーム『Smartsheet』を提供しています。「Fortune 500」企業の80%以上、「Fortune 100」企業の90%以上を含む、世界190か国、85,000以上の企業が『Smartsheet』を導入して、プロジェクトポートフォリオ管理（PPM）や戦略的ポートフォリオ管理（SPM）などのシーンで活用しています。



Smartsheetは2005年に米国で設立、組織は3,000名以上からなるグローバルチームで構成されています。国内においてはSmartsheet Japan株式会社が販売・サポートをおこなっており、ユーザーは日本語版の『Smartsheet』を日本円で利用できます。

【プロジェクト管理のほか幅広いユースケースに対応】

『Smartsheet』は、単一のプロジェクトの管理や、複数のプロジェクトを横断して可視化できることから、幅広いユースケースで活用されています。代表的なユースケース例とし

ては、以下が挙げられます。

- **プロジェクト管理**
 - プロジェクトの状況を可視化
 - プロジェクト関係者へリアルタイムで共有
- **リクエスト管理**
 - 他部門からのリクエストを一元管理
 - ワークフローを作成し、業務効率化
- **社内プロセス管理**
 - 採用・入社プロセスの簡素化
 - 人事関連情報の一元化



『Smartsheet』の利用画面イメージ

【Excelによるプロジェクト管理の課題を解決】

多くの企業で活用されているMicrosoft Excelを用いたプロジェクト管理は、手間がかかる上にミスを引き起こしがちです。『Smartsheet』では、クラウドでプロジェクトの進捗状況を管理、可視化し、プロジェクト管理にかかる手間や時間を効果的に短縮することで、これらの課題を克服します。

Excelによるプロジェクト管理には限界があると分かっているにもかかわらず、新しいツールへの切り替えは「従業員がExcelに慣れているから」といった理由から先送りされることも多いでしょう。しかし、『Smartsheet』であれば、Excelに似たシン

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■ Smartsheet Japan株式会社

プルなUIで、すべてのユーザーが直感的かつノーコードでワークフローの自動化、レポートやダッシュボードの作成が可能です。さらに、IT部門が要求する高いセキュリティと監視機能を備えているため、セキュリティやガバナンスの観点からも安心して導入できます。



『Smartsheet』で利用できる関数の9割以上はExcelと共通。
Excelユーザーであればすぐに使いこなせる

【外部アプリケーションとのデータ連携が容易】

『Smartsheet』はSalesforceやMicrosoft Teams、Slack、Box、Dropboxなどの外部アプリケーションと連携することができます。

例えば『Smartsheet』で情報を一元管理し、「Boxに保存したファイルをSmartsheet経由で外部と共有する」といったことも可能です。さまざまなアプリケーションでデータを参照したり、取り出したり、引き渡したりすることができます。閲覧権限や編集権限を細かく設定する機能を使えば、必要なデータだけを外部と共有することも容易です。

【リソースを適切にマネジメントする機能】

プロジェクト管理では、人的なリソースの配分も重要です。各プロジェクトの進捗状況が分散していると情報の収集だけで多くの時間を要し、新しいプロジェクトを立ち上げる時に誰をアサインするべきか、メンバーの誰がどのプロジェクトにどのくらいの時間をかけるべきかを素早く判断することは、人力では限界があります。

例えば予算を考慮してプロジェクトにアサインするメンバーを決めたり、特定のメンバーに業務が集中して残業が発生していたら余裕があるメンバーをアサインしたりしたいものです。『Smartsheet』のリソースマネジメント機能を使えばこれらが迅速に実現します。

【PPMを支援するコントロールセンター】

『Smartsheet』は、大企業では必須のPPMを支援するコントロールセンターもオプション機能として搭載しています。この機能を使えば、現場の従業員だけでなく、マネジャーや経営層もプロジェクト全体の進捗状況を常時把握でき、素早い経営判断に繋げることができます。

【迅速なプロジェクト立ち上げに役立つテンプレート】

『Smartsheet』では、2,000以上の導入事例から得られたノウハウを反映したテンプレートを用意しており、ユーザーはこれを使用することでプロジェクトをすぐに立ち上げることができます。

例えば、実際の導入企業である米国のスターバックスやドミノ・ピザは、テンプレートを活用することで、新店舗のプロジェクトを数時間で立ち上げています。

【30日間の無料トライアル】

ガントチャートやWBSの作成、各種テンプレートの使用など、『Smartsheet』を30日間無料で利用できます。専用ページ<https://jp.smartsheet.com/try-it>からお申込みください。

常に変化するビジネス状況の中、企業が競争力を保つためには、変化に対応しやすいツールを積極的に導入し、業務に適用していくことが求められています。ぜひ『Smartsheet』を利用してプロジェクト全体を可視化し、業務効率化を実現してください。

■ Smartsheet Japan株式会社

- ・ 住 所：東京都千代田区丸の内1-9-2
グラントウキョウサウスタワー11階
- ・ 代表者：社長執行役員 嘉規 邦伸
- ・ 公式ウェブ：<https://jp.smartsheet.com/>
- ・ お問い合わせ(E-mail)：JapanSales@smartsheet.com

Activities／支部活動

支部創立25周年記念プログラムについて

PMI日本支部 副会長／創立25周年記念プログラムマネジャー 浦田 有佳里

PMI日本支部は2023年1月16日に創立25周年を迎えました。これを記念して、2023年度はさまざまなイベントや新たな取り組みを行いました。



2022年9月から企画検討や担当リーダーの調整などを開始し、2022年12月に理事会にて正式に創立25周年記念プログラム（以下「本プログラム」）の発足を報告しました。

5年前の20周年記念プログラムでは、日本支部の20年を総ざらいし、支部が積み上げた成果をまとめ、さらなる飛躍に向けて進める方針で事業を組み立てました。その後5年を経た本プログラムでは、今後の四半世紀に向けて、この機会に新たな取り組みを始めることを方針として事業を組み立てていきました。若手PMの活動を進めるNext GenerationのイベントやSDGsやESGといったテーマでの活動推進、また、行政スポンサー向けのイベントや、支部としての短時間教育動画の発信を進める活動、地域創生×ART×PMとしてPMoAの取り組みなど、コロナ禍が収束してきたこともあり数多くのイベントを対面で実施しました。

今回、多くの新しい事業が展開され、今後の四半世紀に向けての新たな一歩になりましたが、これはアクティブメンバーの方々の支援もいただきつつ各事業の担当理事や事務局を含め日本支部全体が一丸となって進めた大きな成果と考えています。

以下、個別の施策の概要をまとめました。

1. 創立25周年記念イベント（担当：森田副会長）

12月9日（土）の部会リーダー交流会後に創立25周年記念イベントを開催しました。80名近くのアクティブメンバーのほか本部やアジアパシフィックからのゲストも参加。メンバーによる即興似顔絵や社交ダンスなどの特技も披露され創立25周年を祝いました。



2. 創立25周年記念誌（担当：中村理事）

今後の25年をテーマに日本支部の活動紹介や、会員以外の学生などにもインタビューや記事を依頼し、広くプロジェクトマネジメントについて知っていただくことができました。



Activities / 支部活動

■支部創立25周年記念プログラムについて

3. Next Generation イベント (担当：杉原理事)

40歳以下の若手PM限定イベントを開催し、講演やワークショップなどさまざまな様式でイベントを開催しました。60名以上の参加者があり、若手だけのワークや懇親会で、同世代の方々ならではの話や交流ができました。

4. SDGs イベント — 地域とSDGs・SDGs報告会 —
(担当：保井理事・浦田副会長)

各分会（SDGsスタートアップ研究会・ソーシャルPM研究会・女性コミュニティ・地域サービス委員会など）からのSDGs活動報告、叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部長・教授 保井先生の講演も行いました。



5. アート&地域創生 — PMoA — (担当：齊藤副会長)

ATAMI ART GRANTとの協力により、親子アートワークショップ、現代アートを考える対話型ワークショップ、PMoAイベントなど日本支部主催イベントを3つ開催しました。日本支部としての新たな取り組みや今までイベントに参加されていなかった方々の新規参加も広がり、今後の活動を広げる第一歩として成功したイベントでした。

見て 感じて 考えて 聴いて 伝えあう

主催：PMI日本支部

対話型鑑賞ワークショップ

現代アートの
わからないを愉しむ参加者
募集中

ATAMI ART GRANT 2023の作品を観に行こう！

6. 行政スポンサーイベント (担当：保井理事・浦田副会長)

日本支部のスポンサー制度である行政スポンサーを強化するため、行政職員の方々にも参加いただくイベントを実施しました。まだまだ行政へのプロジェクトマネジメントの普及は難しいものの、本イベントでは1割程度が行政職員の方々に占められました。今後のコミュニティ化などを期待したいと思います。

25周年企画：行政スポンサーイベント

**住民も自治体職員も！マイナンバーカード
活用の秘訣・デジタル田園都市国家構想
TYPE 3への道のり**

自治体現場でマイナンバーカードの活用、デジタル田園都市国家構想への取組み、また、総務省地域情報化アドバイザーとしての活動を通じて得た経験・知見に基づき、自治体デジタル化・DXに必要な観点についてお話いただきます。

講師：CocreCoコンサルティング合同会社 代表 原 秀樹 氏
(元姫路市デジタル部門主幹) 総務省地域情報化アドバイザー

Activities / 支部活動

■支部創立25周年記念プログラムについて

7. 短時間動画によりPM普及 (担当：稲葉理事・端山会長)

日本支部の活動による知見を公開するとともに、プロジェクトマネジメントを広く普及させ、会員への学習機会を提供することを目的に、部会が中心となって動画を制作しました。今後も動画のラインナップを増やし、充実したコンテンツを制作していきます。



私ってそんな仕事してたんだ！？～医療系プロジェクトマネジメント～

8. 25周年記念活動プロモーション(担当：永合理事)

本プログラムのプロモーションとして、始まりの動画やまとめ動画の制作、メルマガやコラムによる情報発信を行い、外部へのプレス発信なども進めました。創立25周年の各事業を束ね、プロモーションに尽力いただきました。



9. ノベルティ(事務局)

創立25周年を彩る記念ノベルティを制作し、アクティブメンバーやイベント参加者に届けることで、日本支部をプロモーションすることが出来ました。



今回、本当に多くの方々にご協力、ご参加いただき、日本支部の今後の25年に思いをはせることができました。皆さまにお礼申し上げます。

PMI日本支部リーダーシップ・ミーティング LM2023開催報告

PMコミュニティ活性化委員会 委員長 杉原 秀保

2023年9月9日(土)と10日(日)の2日間、東京都大田区蒲田にあるニッセイアロマスクエアビルにて「PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2023」を開催しましたので報告いたします。



■ LM2023のテーマ

今年で9回目となるリーダーシップ・ミーティングは戦略委員会のひとつであるPMコミュニティ活性化委員会（委員長 杉原秀保 理事）が中心となって企画・運営しています。日本支部の各部会（委員会、研究会、ランチ、プログラム）からリーダーやアクティブ・メンバーを派遣いただき、今後のPMI本部や日本支部のビジョンや方向性、施策などを共有したり参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを行ったりすることで、よりアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化させることが目的です。

今年度も各部会からリーダーならびに今後のリーダー候補となるメンバーを1～2名参加をお願いし、最終的には理事・監事・アドバイザー20名、事務局・運営8名を含む総勢72名（うちLM初参加は20名）により、2日間にわたって熱い議論が展開されました。

今年のテーマは「次の25年後を見据えた日本支部の未来の価値を考えよう」です。創立25周年という節目を迎えた日本支部において次の25年に向けたビジョンと活動に焦点を当て、支部の中長期計画へのインプットとして提言しよう

とするものです。変化の激しい現代において四半世紀先の未来を想像することは容易ではありませんが、グループ討議では若手メンバーからの斬新なアイデアやベテラン・メンバーからの豊富な経験に基づく提案など、多岐にわたる意見が出され活発な議論が行われました。

■ 開催概要（Day 1）

会議初日の開会宣言の後、オープニングで端山会長からは、日本支部は創立25周年を迎え会員数・法人スポンサー数も増加しており好調であることが報告されました。また、日本の産業構造や社会構造が変わりゆく中で、日本支部としても、規模拡大に伴うガバナンスと統合を行うために横串機能を強化し、多様な新規参入者への対応、グローバルな地位向上の活用を行っていくことが重要であるとお話いただきました。

その後、基調講演①では、PMIアジア・パシフィック（AP）から2名のゲストを招きました。まず、YeYoon Kim氏（PMI AP Head of Community）から「PMIの文化的価値観と行動」と題し、PMIが掲げる5つの文化的価値観とその重要性や具体的な行動について、アクションを交えながら説明をいただきました。



続いてSoHyun Kang氏（PMI AP Regional Manager）からは「PMIのグローバルとリージョナル戦略」と題しアジア太平洋地域の経済・業界・人口動態のトレンドを踏まえたAP

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2023開催報告

および日本支部のフォーカスエリアについてお話をいただきました。

基調講演②では、谷口 和行 氏（組織拡大委員会 未来創造プログラム）より「私達が創るサステナブルな支部、そして社会」の題目で講演いただきました。現代を「対話の時代」と評し、プロジェクト・マネジャーとして対話を通じて不確実性に向き合うことの重要性や、現在活動中の未来創造プログラムの狙い（次世代を担う若手層の参画による支部活動の活性化）やそのための具体的な活動内容についてプレゼンテーションいただきました。



昼食をはさみ午後からは2023年のLMの主テーマである「次の25年後を見据えた日本支部の未来の価値を考えよう」という題目でワークショップ(WS)を行いました。WSのファシリテーションは昨年に続き、当麻 哲哉 氏（慶應義塾大学大学院 SDM研究科 教授）と石井 真 氏（PMコミュニティ活性化委員会 LM運営リーダー）に担当していただきました。

WSは参加者をA～Hの8グループに分け、主題である25年後の日本支部の価値について、時代とともに変えるべきものと変えてはいけないもの、SocialとBusinessの2軸で4つの領域に分けそれぞれ議論を重ねました。



WS①では自己紹介から始まり、それぞれ与えられたテーマでの現状の不満（課題）をブレインストーミングと親和図法を使ってまとめました。

WS②では課題とビジョンをつなぐロジックモデルの解説とともに、洗い出された現状課題に対して不満が解決した未来のあるべき状態（ビジョン）を考え、大きな理想像としてまとめました。

WS③では初日の締めくくりとして各グループで議論した結果を1ページ広告（ポスター）として作成し披露していただきました。どのグループのポスターもユニークでキャッチーなものとなり、課題とビジョンのギャップを示し解決することの重要性を見事に表現していました。

1日目の終了後には近隣の飲食店へ場所を移し交流会が行われました。対面でのネットワーキングはコロナ禍の影響で長期間自粛してきたこともあり、美味しい料理を囲んで大いに盛り上がりました。楽しいひとときを過ごし、リアルな交流の大切さを再確認しました。



■開催概要 (Day2)

2日目のWS④では、前日にまとめた現状の課題と25年後のビジョンを元にロジックモデルの作成に取り組みました。各課題に対する活動を計画し短期アウトカムを予測する。またビジョンを実現するための長期・中期アウトカムをバックキャストし、それらを短期アウトカムとマッチングさせてロジックモデルを完成させました。

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2023開催報告



2日間のWSの締めくくりは、各グループで議論した結果の発表と質疑応答です。発表はLMでは恒例となっているスキット（寸劇）形式で行われましたが、即興とは思えぬほど熱のこもった演技で会場は大盛り上がりとなりました。全てのチームの発表後には参加者全員による投票により、グループG（人生はプロジェクトだ！）が最優秀賞に、グループH（PMI会員のステータス）が優秀賞にそれぞれ選ばれました。



最後に藤原理事によるWS講評と端山会長からの全体講評をもってLM2023は盛況のうちに閉幕となりました。

25年後のビジョンを描き、そこに繋がる具体的な施策を提言するには時間が十分とは言えませんでした。限られた時間の中で議論を尽くし、これらのアイデアが次年度以降の各部会の活動計画にインプットされ、支部の中・長期計画立案のための材料になることが期待されます。

■LM2023の効果

LM2023の効果について、組織活性化の観点と、個人のスキル向上の観点の2点に大別して以下にまとめます。

1. 情報共有によるPMコミュニティの活性化

PMI本部や日本支部の活動の方向性がオープンになり、会長・理事・部会リーダー・アクティブメンバーが一緒になってコミュニケーションする場を持つことで、アクティブ・メンバーにとってのボランティア活動の価値がより深く理解され、モチベーションの向上につながり、日本支部での活動が活発化される効果が期待されます。

2. 個人のリーダーシップ・スキル向上

今回のLMでは25年後の日本支部の価値やビジョンをイメージし、現状課題と短期・中期・長期活動計画（ロジックモデル）をまとめ提言するというワークショップに参加することで部会の中でのリーダーシップ発揮に役立つだけでなく、各自の実務におけるプロジェクトマネジメント実践にも役立つスキルを習得できます。また、学んだことを部会活動に適用できるように、希望する部会にはフォローアップをするようにしています。

他のチャプターでは例を見ない日本支部独自のLMを開催することにより、参加者がより深い議論や新しいアイデアを共有し、交流を深める機会となりました。これにより、日本支部としての連帯感が高まり、PMコミュニティ活動への参加意欲が向上しました。



■最後に

コロナ禍の影響により、リーダーシップ・ミーティングはオンラインでの1日開催が続いていましたが、今年は2019年以来4年ぶりのオンサイトでの2日間（日帰り）の開催となりました。参加者の方々からのアンケート結果からもオンサイト開催に対する満足度は高く、運営チームとしても改善点を総括し、次年度以降もオンサイト開催を継続する方向で

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2023開催報告

検討していきたいと考えています。また、今回のワークショップでも多くの意見が上がった若年層へのアプローチとして若者や新規参入者を中心とした同様のワークショップの開催についても検討していきます。

最後にLM2023の開催に向けて半年前より準備いただいた事務局ならびに運営チームの方々、また当日ボランティアとしてサポートいただいた皆さまにこの場を借りて心より感謝申し上げます。



PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー／ワークショップ

● 1月度 月例セミナー

- 日時：1月19日(金) 19:00～21:00
- 形式：リモート開催（オンデマンド配信は1月末まで）
- 2PDU

● 戦略的PMO実践ワークショップ2024

- 日時：1月27日(土) 13:00～17:20
- 形式：リモート開催
- 4PDU

● “プロジェクトがビジネスを牽引する時代”の『ポートフォリオマネジメント』セミナー

- 日時：1月26日(金) 19:00～21:00
- 形式：リモート開催（オンデマンド配信は2月末まで）
- 2PDU

● アジャイル基礎

- 日時：3月5日(火) 9:30～18:30
- 形式：リモート開催
- 7PDU

■ PMI日本支部関連イベント

● PMI 日本フォーラム 2024 (予定)

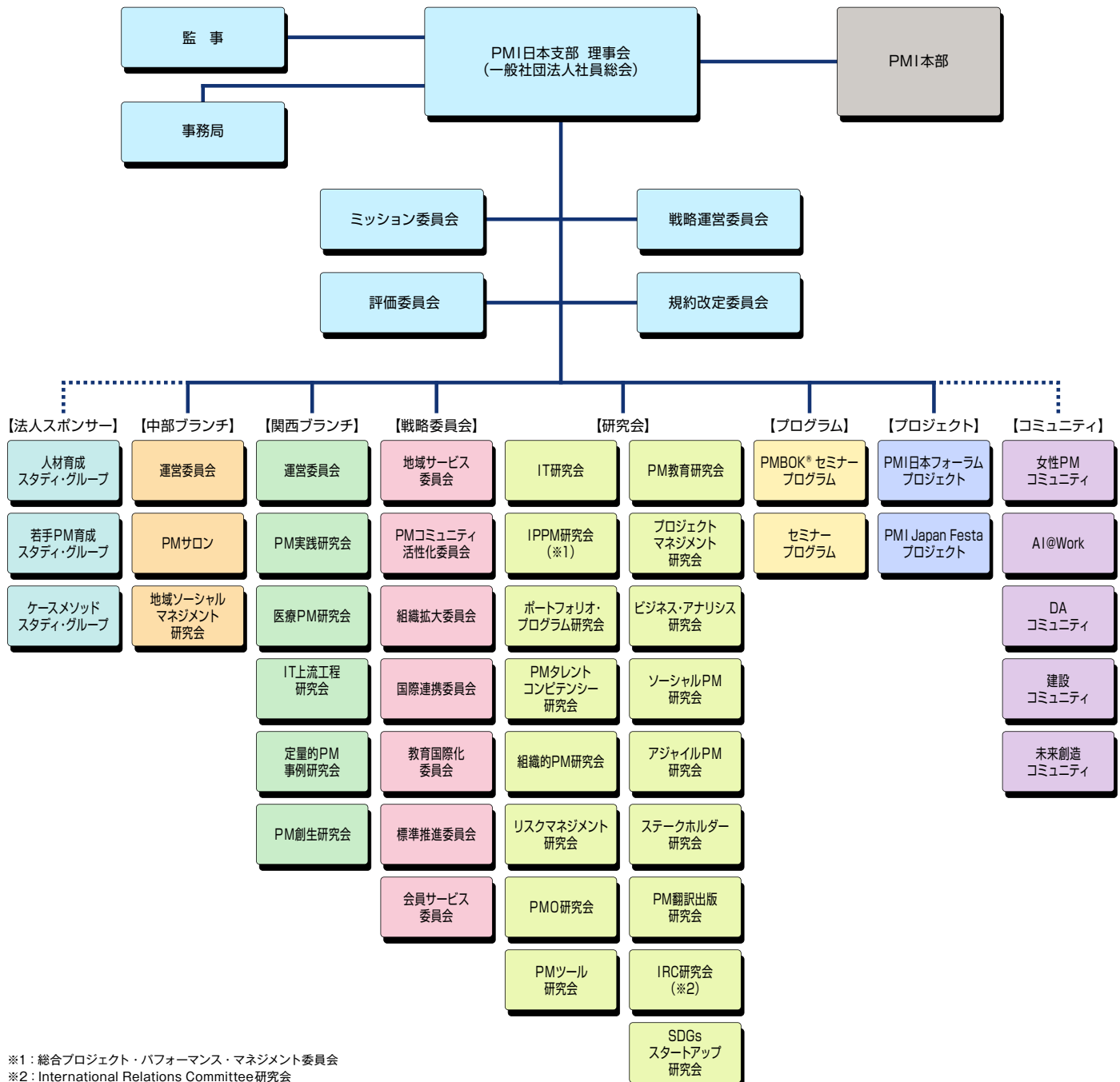
- リアルタイム配信：2024年7月6日(土)～7日(日)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2023年12月現在)



Fact Database / データベース

■ 理事一覧 (2023年12月現在)

会 長	端 山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	麻 生 重 樹	日本電気株式会社
副会長	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構／ナショナルサイバートレーニングセンター
副会長	奥 澤 薫	KOLABO
副会長	斉 藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	森 田 公 至	DXC テクノロジー・ジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理 事	有 坂 寿 洋	株式会社日立アカデミー
理 事	稲 葉 涼 太	株式会社Flexas Z
理 事	井 上 雅 裕	慶應義塾大学／芝浦工業大学／ISAL
理 事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理 事	鬼 束 孝 則	Ridgelinez 株式会社
理 事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理 事	杉 原 秀 保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理 事	千 葉 昌 幸	株式会社三菱総合研究所
理 事	中 村 亜 子	株式会社パーソル総合研究所
理 事	永合由美子	東京大学／(特非)日本女性技術者科学者ネットワーク／(特非)女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト
理 事	藤 井 新 吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理 事	藤 原 慎	株式会社NTTデータユニバーシティ
理 事	松 本 弘 明	株式会社ローソン銀行
理 事	水 井 悦 子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理 事	保 井 俊 之	広島県公立大学法人／叡啓大学
理 事	山 本 智 子	川崎医療福祉大学
理 事	除 村 健 俊	サイバー大学／芝浦工業大学
理 事	渡 辺 敏 之	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
監 事	片 江 有 利	株式会社システムコストマネジメント
監 事	三 嶋 良 武	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
監 事	山 中 良 文	自営業者

■ 最新の会員・資格者情報 (2023年11月30日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
704,223	6,126

資格保有者数 (人)												
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM®	DASSM®	DAC®	DAVSC®
世界全体	日本在住											
1,480,835	45,184	9	20	27	444	15	20	604	48	48	14	2

■行政スポンサー (2023年12月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市
- 広島県 福山市
- 広島県総務局 県庁情報システム担当

■法人スポンサー 一覧 (116社、順不同、2023年12月現在)

- TIS 株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノン IT ソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータグループ
- プラネット株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード合同会社
- 株式会社アイ・ティ・ワン
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- BIPROGY 株式会社
- JBCC 株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研 DCS 株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社 N T T データ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社 JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDI ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社 TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A 株式会社
- ロジスティードソリューションズ株式会社
- SCSK 株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPO システムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&AD システムズ株式会社
- リコージャパン株式会社

Fact Database/データベース

- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート
- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーム株式会社
- I&Jデジタルイノベーション株式会社
- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- MIデジタルサービス株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- TOPPANエッジ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社PE-BANK
- 三菱電機エンジニアリング株式会社
- Smartsheet Japan 株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- AKKODiS コンサルティング株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS
- キンドリルジャパン・テクノロジーサービス株式会社
- ネットワンシステムズ株式会社

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (52 教育機関、順不同、2023 年 12 月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室

Fact Database/データベース

- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室